

加茂支部2025年新春のつどいを開催！

猪原純&ネムカカコンサートに44名が参加！



1月26日日曜日、加茂交流館にて、2025年度加茂支部新春のつどいを開催しました。熊谷真由美さんの司会で進め、始めに、加茂支部の歌を、松本恵子さん、三島睦子さんの先導で参加者と唄いました。
(写真上から3枚目)

高木武志支部長が、今年も楽しい行事をして行きましょう。と挨拶しました。(写真上から4枚目)



宮澤千明組織部長が、3月に開催した「NEW 班会を学ぼう」に参加した加茂支部の豊田幸枝さんが、「班会は社会参加、居場所」であることをいち早く実践し、2班結成しました。大いに班をつくりましょう。と挨拶しました。(写真次ページ1枚目)

続いて、中石章備後の里理事長（元加茂支部長）はひとり暮らしの高齢者が増え見守りが必要な時は、要介護1から5の方なら、備後の里の定時巡回・随時対応訪問介護看護を利用することができます。と挨拶しました(写真次ページ2枚目)



乃美康志専務理事は、加茂支部は班を大事にしている、班づくりに取り組まれ、地域の中で結びつきが出来ています。これからも班会を続けましょう。また、ふれあい診療所の医師体制について期待に込えられていませんが、医師獲得に向け一生懸命努力をしているので、ご理解をしてほしい。と挨拶しました。(写真次ページ3枚目)



河村晃子県議（顧問）は、広島県内の特養待機者は約7,000人、補助金を増やして施設を増やすこと、介護職員の処遇改善をすることが必要です。病院の統廃合による、広島駅北に建設する新病院の建設費が想定の1,400億円から3割増に膨らんだと県が明らかになりました。県民に借金を負わせ、地域医療を壊すのはおかしいです。みなさんと力を合わせて、いのちを守る県政にするために全力で頑張ります。と挨拶しました。（写真4枚目）

塩沢光江市議は、仲間と会って心がワクワクする医療生協の班活動は大切な居場所、近所で集まれる場所が欲しいというみなさんの願いに反して、福山市は公民館を統合する等してその数を減らしてきました。集まれる場所とそこに行くまでの公共交通手段と合わせて求めて行きます。と挨拶しました。（写真5枚目）

猪原純&ネムカカコンサートの第1部は、ネムカカさんの「ホタルノアカリ」から始まりました。猪原純さんとネムカカさんは、同じ医療機関に勤めていた関係で一緒に演奏活動をするようになりました。この「ホタルノアカリ」と4曲目の純さんの「花のように」は、福山市民病院労組の依頼で看護師などケア労働者への応援歌として創られました。また、ネムカカさんは、今でも医療機関に勤めていて、先日能登地震被災支援ボランティア活動に参加をされたそうです。純さんとネムカカさんは、2月2日にチャリティライブを行いました。続いて「あなたに逢えて」「虹の頃に」「花のように」「名前をつけて」等、オリジナル曲を演奏していただきました。会場は灯りを暗くして、受付で配られたペンライトで盛り上がりました。

10分の休憩の後、第2部として「みんなで唄おう」という企画で、「上を向いて歩こう」「め組の人」「ルビーの指輪」「人生いろいろ」「愛燦燦」を唄いました。「人生いろいろ」では、松本恵子さん、重本チサエさん、花岡がトリオで唄いました。

最後に、アンコールでチューリップの「心の旅」、赤い鳥の「翼をください」をみんなで唄いました。

猪原由美子副支部長は、アンコールの「翼をください」を聞きながら、昔のことを思い出して涙が溢れ感動しました。と閉会挨拶をしました。最後に、参加者全員で記念写真を撮りました。（写真1枚目の一番上）

準備をしていただいた運営委員のみなさま、お疲れ様でした。ありがとうございました。